

事後評価結果

定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

- ・近年の浸水被害により早急な対策が必要な河川など、優先度の高い箇所から早期完成を目指して整備を進めた結果、防護達成人口率が上昇した。
- ・堤防高さの不足による高潮被害や護岸の老朽化による機能低下で早急な対策が必要な海岸について整備を進めた結果、防護達成人口率が上昇した。
- ・地震による液状化や津波等の被害に対し対策が必要な河川について整備を進めた結果、防護達成人口率が上昇した。
- ・長寿命化計画に基づく点検、整備、更新等により、排水機場のトータルコストの縮減、平準化を図った。
- ・長寿命化計画に基づくダム施設の更新等により、ダムのトータルコストの縮減、平準化を図った。

定量的指標の達成状況

指標①（洪水高潮防護達成人口率）	最終目標値	63.0%	目標値と実績値に差が出た要因	平成30年豪雨災害等に対応するため浸水被害対策に集中的な投資を実施したため
	最終実績値	64.5%		
指標②（海岸高潮防護達成人口率）	最終目標値	68.1%	目標値と実績値に差が出た要因	平成30年豪雨災害等に対応するため浸水被害対策に集中的な投資を実施したため
	最終実績値	66.1%		
指標③（堤防耐震化防護達成人口率）	最終目標値	42.7%	目標値と実績値に差が出た要因	平成30年豪雨災害等に対応するため浸水被害対策に集中的な投資を実施したため
	最終実績値	42.2%		
指標④（長寿命化計画に基づく排水機場施設点検、整備、更新等）	最終目標値	9箇所	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成
	最終実績値	9箇所		
指標⑤（長寿命化計画に基づくダム施設の更新等）	最終目標値	2ダム	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成
	最終実績値	2ダム		

特記事項（今後の方針等）

今後も総合的な治水対策を継続して着実に実施することにより、水害に強い県土をつくるとともに、安全安心な県民生活の確保を図る。